

公表

平成22年度日本獣医師会獣医学術賞の 受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、奨励賞は日獣会誌の平成20年8月号（第61巻第8号）から平成22年7月号（第63巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、学会賞は獣医学術学会年次大会（岐阜）において発表された地区学会賞の中から選考された学会賞に、功労賞は推薦のあった永年の功労の業績の中から、選考委員会において厳正に審査され、平成22年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（岐阜）の合同定期総会における授与式において本山根会長から受賞者に本賞及び、協賛会社（日本全薬工業謹、共立製薬謹、日本ハム謹）から研究奨励金20万円（目録）が授与された。

表彰された受賞者及び研究業績の一覧は次のとおり。

平成22年度 日本獣医師会獣医学術賞 受賞業績

【産業動物部門】

獣医学術奨励賞：

「妊娠末期における母牛の栄養状態が出生後の黒毛和種産子の末梢血白血球ポピュレーションに及ぼす影響」
田波絵里香（小比類巻家畜診療サービス・青森県），他

〈選考理由〉黒毛和種牛の子牛では高率に疾病が発生し、肉牛生産性阻害の重要な原因となっている。本論文では、母牛の妊娠末期の栄養状態が子牛の末梢血白血球サブポピュレーションに及ぼす影響を詳細に調査し、その結果、分娩前の低栄養が子牛の免疫抵抗性の低下を招く可能性のあることが明らかにされている。この内容は、獣医学術の進歩に大きく貢献するものであり、今後の研究の発展性が期待できることが評価された。

獣医学術学会賞：

「牛出血性腸症候群(HBS)の病理学的検索とその考察」

大脇茂男（北海道オホーツク農業共済組合北見家畜診療所），他

〈選考理由〉本研究は、病態や診断・治療法が確立されていない牛出血性腸症候群の複数の重症例について病理学的検索を行い、これまで腸管腔内への出血と考えられていたものが粘膜下出血であったことを強く示唆する知見を得ており、今後、本病の治療法を検討するにあたって重要な情報を提供する可能性があることが評価された。

獣医学術功労賞：

「牛の代謝病に関する研究とその応用・普及」

川村清市（北里大学・名誉教授）

〈選考理由〉長年にわたり、産業動物獣医学の研究と教育に従事し、特に、牛の代謝病に関して顕著な業績をあげている。また、これらの研究の成果の臨床応用と普及にも積極的に取り組み、我が国の産業動物獣医療の発展にも大きく貢献していることが評価された。

【小動物部門】

獣医学術奨励賞：

「犬の胆道造影CT検査におけるイオトロクス酸メグルミン投与量と胆道系のCT値および胆道系描出の経時的変化」

宇野雄博（宇野動物病院・愛媛県），他

〈選考理由〉本論文は、胆道造影CT検査におけるイオトロクス酸メグルミンの投与量および撮像時

間について検討を行った論文である。従来、胆道造影CT検査における造影剤の投与量および撮像時間等は、明確な科学的根拠がないままに、人での条件および経験等に基づいて行われてきた。本論文では、多くの供試犬を使用し、客観的な試験法により明確な科学的根拠を基盤として最適な投与量および撮像時間を明らかにしており、優秀な論文であると評価された。

獣医学術学会賞：

「生後1～2カ月齢の子犬2,000例に対するスクリーニング的心エコー図検査結果」

田口大介（グリーン動物病院・岩手県），他
〈選考理由〉演者は，昨年度発表した子犬1,000例から例数を増やして2,000例のデータについて詳細に分析を重ね，今までほとんど報告がなかった生後1～2カ月の子犬の心エコー図検査の所見を，様々な観点から掘り下げて標準値となるべき信頼性の高いデータとして示したことは貴重であり，本発表は小動物獣医療に多くの情報を提供するものである。また，これらの所見の中には新知見となるものも多数含まれていることから，学会賞としてふさわしいものと考えられる。

獣医学術功労賞：

「小動物臨床における各種診断法の向上等による臨床獣医学の発展への貢献」

大西堂文（山口大学・名誉教授）
〈選考理由〉小動物臨床における内科学領域，特に診断法における様々な研究を行い，本学会誌並びに国内外の獣医関連雑誌に多くの論文を掲載し，また本学会学術集会においても多くの発表を行い，獣医診断学並びに獣医内科学の向上・啓発に大きく貢献した。また，大学の教員として多くの学生・大学院生の臨床獣医学の教育に貢献した。以上の結果を総合して，小動物の臨床獣医学への貢献は多大であると評価された。

【公衆衛生部門】

獣医学術奨励賞：

「豚サーコウイルス2型および豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルスに感染した肥育豚からの *Cryptosporidium parvum* pig genotype II と *Cryptosporidium suis* の検出」

油井 武（埼玉県中央家畜保健衛生所），他

〈選考理由〉この研究は，養豚場での発育不良肥育豚の病性鑑定において，豚サーコウイルスと豚繁殖呼吸障害症候群ウイルスへの感染に加え，クリプトスポリジウム・スイスへの感染を見出し，同原虫と消化管病変についての詳細像を明らかにしたものである。同原虫はヒトへの感染が認められていることから，本研究は公衆衛生上重要な問題を提起し，獣医公衆衛生学分野の学術調査の発展に大いに貢献するものと評価された。

獣医学術学会賞：

「埼玉県で捕獲されたアライグマにおける人獣共通感染症病原体の保有状況調査」

近 真理奈（埼玉県衛生研究所），他
〈選考理由〉本研究は，全国的に問題となりつつあるアライグマについて人獣共通感染症の病原体の保有状況を調査したものである。特に，1,140頭という膨大なアライグマサンプルから細菌，原虫，寄生虫を網羅的に解析するとともに，トキソプラズマに対する抗体など血清疫学的な解析も合わせて行っている。本研究は，野生動物から人へ感染が懸念される人獣共通感染症の問題を勢力的に解析した内容が評価された。

獣医学術功労賞：

「国際連携に基づく人獣共通感染症の疫学研究」

森田千春（元酪農学園大学・教授）
〈選考理由〉人獣共通感染症について，ウイルスのみならずリケッチア，細菌，原虫を含めて世界的な疫学調査を推進し，それら疾病の伝播様式を解明するとともに，診断方法を開発するなど，獣医公衆衛生分野における学術の振興・普及に大変貢献したことが評価された。



平成22年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞者（左から，森田千春，油井 武，大西堂文，川村清市，宇野雄博，田波絵里香，近 真理奈，田口大介，大脇茂男の各氏）